

第2節 現状と課題

1 本質的価値及びその他の諸要素における現状と課題

1) 本質的価値を構成する諸要素における現状と課題

要素		現 状	課 題
歴史的 構造物	地盤・自然地形	◆史跡指定地である城山は平坦地の中の孤立丘に立地し、地形的にランドマークとなっている。 ◆城山斜面部は急傾斜で、風化岩が多くこれまでも斜面下の民有地等へ落石被害等が発生している。斜面裾部は斜面崩落防止の擁壁やネットフェンス等を設置しているが一部老朽化している箇所等もある。現在急傾斜崩壊対策工事を計画的に進めている。 ◆降雨時は城内では谷部に雨水が集中し、水道となり搦手口の石段では路面の洗掘が見られる。	◆城山斜面部の大半においては現況把握が出来ておらず、土砂流出・崩落・落石による災害発生の未然防止や史跡の本質的価値の維持のためにも防災対策を計画的に進める必要がある。 ◆城郭関連施設以外の大規模施設（配水池）の取扱いを検討する必要がある。
	郭跡	◆史跡指定地においては、本丸・二之丸・藤兵衛丸・長門丸・代右衛門丸・式部丸・井戸丸等各郭跡が比較的良好に残っている。また山麓には作事所跡や追手門跡がある。本丸背面は石垣でなく土塁が残存している。	◆城郭と関連しない施設の設置等により郭が分断され、かつての郭の内容や規模がわかりにくくなっている箇所がある。
	石垣	◆史跡指定地においては、各郭や、道路沿いに比較的良好な形で石垣が残る。 ◆一部崩落箇所やハラミ、ズレが見られる他、樹木等の成長により石垣等遺構に悪影響を及ぼしているところがある。	◆崩落危険箇所については早期の修理等を行う必要がある。 ◆樹根による石垣破損の進行がみられるものは、樹木の伐採等を検討する必要がある。
城道（園路）	城道	◆往時の道を現在も道路として利用している箇所があるが、中には現在は利用されておらず、草木に覆われ、その明確な位置等が確認されていない道もある。 ◆後世に付けられた道と重複している箇所があり、往時の遺構を削平している道路もある。 ◆石段等についても踏面にコンクリート等により補修されている箇所があり、後世に補足したと思われる幅の短い石段がある。	◆城内道は、城山の谷部や斜面に並行した小段を通っており、雨水排水が集中しやすい箇所にあるため、道の修復等に際しては雨水排水対策を合わせて行う必要がある。 ◆史跡指定地内の後世において改変された道については、今後の利用、活用を十分に考慮しつつ、往時の姿に戻していくことを検討する必要がある。 ◆特に石段については排水処理等課題の解消と遺構の修復を合わせて検討する必要がある。その際、通行上の安全性（踏面の高さ）にも配慮して、後年付けられた石段の取扱い等も検討する必要がある。
	園路		

歴史的建造物	◆天守（重要文化財）、上り立ち門（市指定建造物）、旧山里倉庫（移築建物）がある。 ◆天守は有料で公開しており、上り立ち門は史跡公開時間に応じた開閉施設として現在も利用されている。旧山里倉庫はかつて城山の三之丸を巡る内堀の東側にあったが、昭和42年に移築して城山郷土館として利用しているが、この際一部改変されている。 ◆上り立ち門は平成17～18年に解体修理を実施している。	◆宇和島城のひとつの特徴ともいえる現存する天守をはじめとして建築遺構は、小規模補修や周期的な大規模修理が必要であることから、耐震診断を含めた定期的修理等により保存を図る必要がある。 ◆旧山里倉庫の修理に際しては、後年の改変箇所の取扱いについても検討する必要がある。
地下遺構	◆郭内の建物跡（台所跡、櫓跡、門跡、堀跡等）に関わる礎石等の遺構の存在が想定される。 ◆追手門跡では発掘調査において部分的に根石が確認されている。 ◆これまでの石垣修理に際しての発掘調査では現存石垣の背面から改修前の石垣が検出されており、古い石垣が他のも埋蔵されているものとみられる。 ◆近世城郭以前の中世山城関連の曲輪等については城山山中等に平坦面や切岸等の遺構も想定されるが、詳細は不明である。	◆現状変更等に際しては地下遺構の確認とともに遺構の保存を大前提として行う必要がある。また確認調査等で得た成果の情報提供や整備への反映など、適切な方策を検討する必要がある。

2) その他の諸要素における現状と課題

要素	現状	課題
歴史的要素	◆江戸時代の移築建築物として穂積家長屋門（藤兵衛丸）がある。後年の改変を受けている。 ◆昭和初期に設置された水準点（上り立ち門北の石段沿い）がある。	◆城郭とは直接関係ないが、歴史的要素として取扱いを検討する必要がある。
活用施設 史跡保存管理・	◆櫓跡遺構表示施設（二之丸）、倉庫（長門丸）・管理用道路等保存管理施設がある。 ◆公開活用施設としての案内板等サイン類、消火栓等防災施設等がある。	◆老朽化した施設もみられ必要に応じた更新等が必要である。
観光関連施設 公園施設・	◆都市公園に指定されており、公園施設としてベンチ・アズマヤ等休憩施設、砂場・ブランコ・滑り台等遊具、水飲み等便益施設（長門丸）がある。 ◆公開・観光関連としてライトアップ施設がある。 ◆郷土の著名人を顕彰する石碑：中井コップ歌碑（長門丸）、児島惟兼像（上り立ち門南）、中原町長頌功碑（城山東山裾）	◆遊具等については取扱いを検討する必要がある。また記念碑等の新たな設置・撤去等に対する方針を示す必要がある。
公共施設 その他	◆城山配水池（長門丸）、サイレン（本丸）	◆機能の必要性に配慮した上で長期的な見通しも含んだ取扱いを検討する必要がある。
植物	◆史跡指定地のうち特に丘陵地である城山の大半は樹木に覆われている。樹種は約400種あるといわれ、その大部分は照葉樹である。城山の植生は愛媛県を代表する照葉樹林として「えひめ森林浴八十八ヵ所」に平成15年に選ばれている。 ◆多くは自生とみられ、クス、カゴノキ、アラカシ、スダジイ、クロガネモチ、エノキ、ムクノキ、センダン、ヤブツバキ、ヤブニッケイ、バクチノキ、ネズミモチなどが繁茂している。 ◆植栽木として、代右衛門丸のクスノキ、長門丸・本丸などにみられるサクラなどがある。	◆鬱蒼としている箇所が多く、防犯・景観・活用上問題を生じている。 ◆遺構上やその近くにあるものなど遺構の保存上影響を与えているものがある。 ◆山麓近くの急斜面などに大きく育った樹木の中には山下部分に幹が大きく傾いたものや岩の上に育つものなどがあり、斜面崩落を誘因する恐れがある。 ◆大木等が大きく枝を広げ昼なお暗い場所が多く、下草類が育たず裸地化して保水力の低下が見られ、降雨時には山麓部に流水が集中する恐れがある。 ◆クスノキ等大きく育つ樹木の取扱いなど、城山の計画的・継続的な樹木管理が必要である。 ◆サクラ（ソメイヨシノ）は、樹木間隔が近いこともあって枝の折やコウヤク病、テングス病なども見られ、老木化が顕著で更新時期が到来しているが、品種を含めて今後の取扱いを検討する必要がある。

2 各曲輪における現状と課題

1) 本丸跡

◆A 本質的価値を構成する諸要素

現状	課題
・現存天守が立ち、御台所や鉄砲矢倉などの礎石が残る。 ・北側石垣中央部付近にハラミが見られる。 ・平成23年・26年度の降雨で石垣と斜面に崩落が発生しており、この復旧を令和3年度まで実施した。	・重要文化財である天守は保存活用計画が未策定であり、耐震診断も行っていない。 ・解説板などによる礎石の説明が少ない。 ・ハラミの見られる石垣については調査・修理の必要性がある。

◆B-1 本質的価値の補完に好影響を及ぼす諸要素

現状	課題
・夜間に天守をライトアップするため、周囲3箇所に照明設備が設置している。 ・天守を囲んで4箇所消火栓が設置されており、南東側には消火栓用の揚配水ポンプと防火水槽がある。 ・東側角にはバイオトイレを設置している。 ・ベンチが数多く設置されている。 ・天守、眺望、曲輪の解説板を設置している。	・照明設備は平成4～5年度に設置されて以降、設備更新を行っておらず、現在でも水銀灯を使用している。 ・バイオトイレは色彩が周囲となじんでいない状態になっている。 ・新旧様々なベンチがあり、仕様や配置も含めて再検討する必要がある。 ・解説板の台座に統一されておらず、仕様を再検討する必要がある。

◆B-2 史跡の価値に直接関係しない諸要素

現状	課題
・矢倉内や石垣天端付近にソメイヨシノ等のサクラが林立している。 ・天守裏にコンクリート建物のミュージックサイレン施設がある。 ・天守裏に防災無線施設がある。	・サクラは後世に植えられたものであり、一部礎石を損壊しているものがある。 ・ミュージックサイレンは役割が防災無線施設に移り、現在機能していない状態にある。 ・ミュージックサイレン、防災無線施設が景観の阻害要素となっている。



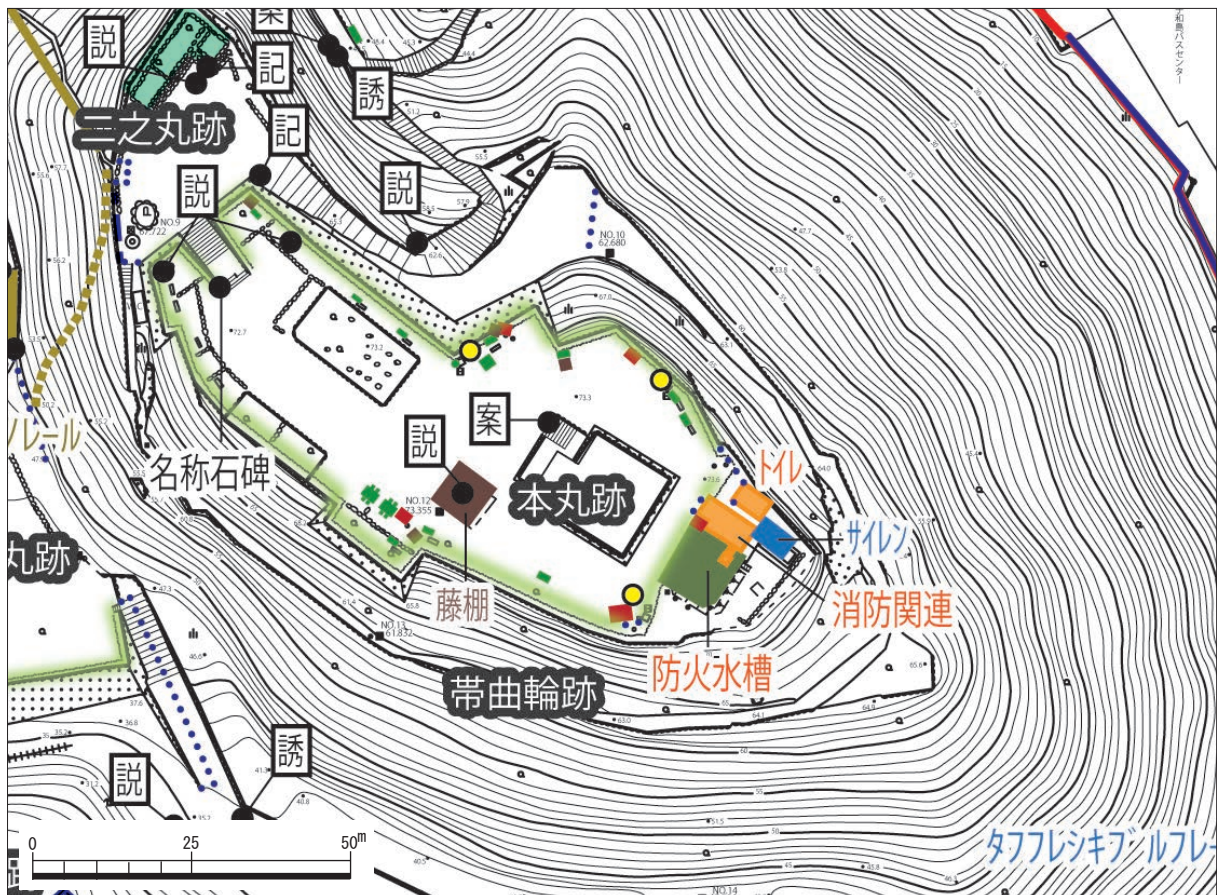
本丸北側石垣



照明設備



本丸 A 本質的価値を構成する諸要素



本丸 B その他の諸要素

2) 二之丸・帯曲輪跡

◆A 本質的価値を構成する諸要素

現状	課題
・帯曲輪は斜面の崩落が見られるため一般公開は行っていない。 ・北側及び東側の石垣は平成9～16年度に修理を実施している。 ・平成23・24・26年度の降雨で石垣及び斜面の崩落が発生し、本丸石垣の復旧と合わせて令和3年度まで実施した。 ・帯曲輪には板塀の痕跡となる礎石が残る。	・帯曲輪の崩落箇所及び崩落危険箇所はワイヤーネットによる保護がされているものの、経年によってやや緩みが発生している。 ・一般公開を行っていないことから他の曲輪と比べて整備が進んでいない。 ・御書物矢倉及び三之門、太鼓矢倉は発掘調査を行っておらず、実態が把握できていない。

◆B-1 本質的価値の補完に好影響を及ぼす諸要素

現状	課題
・御算用矢倉と二之門の礎石を解説板と遺構表示板によって露出展示している。 ・御算用矢倉については真砂土舗装によって平面表示を行っている。 ・ベンチが複数設置している。	・埋設式の遺構表示板は二之丸部分にだけ見られ、城内サインの統一性が損なわれている。 ・真砂土舗装が劣化し、平面表示効果が失われている。 ・新旧のベンチが混在しており、仕様や配置も含めて再検討する必要がある。

◆B-2 史跡の価値に直接関係しない諸要素

現状	課題
・藤兵衛丸からの仮設階段と代右衛門丸からの資材運搬用モノレールが設置されている。 ・帯曲輪は左右の斜面に樹木が茂っている。	・本丸からの下り口正面にプラットホームがあるため、設備が目立ち、史跡としての景観を損ねている。 ・帯曲輪は斜面に立つ樹木によって外への眺望が阻害されている。



御算用矢倉跡



帯曲輪



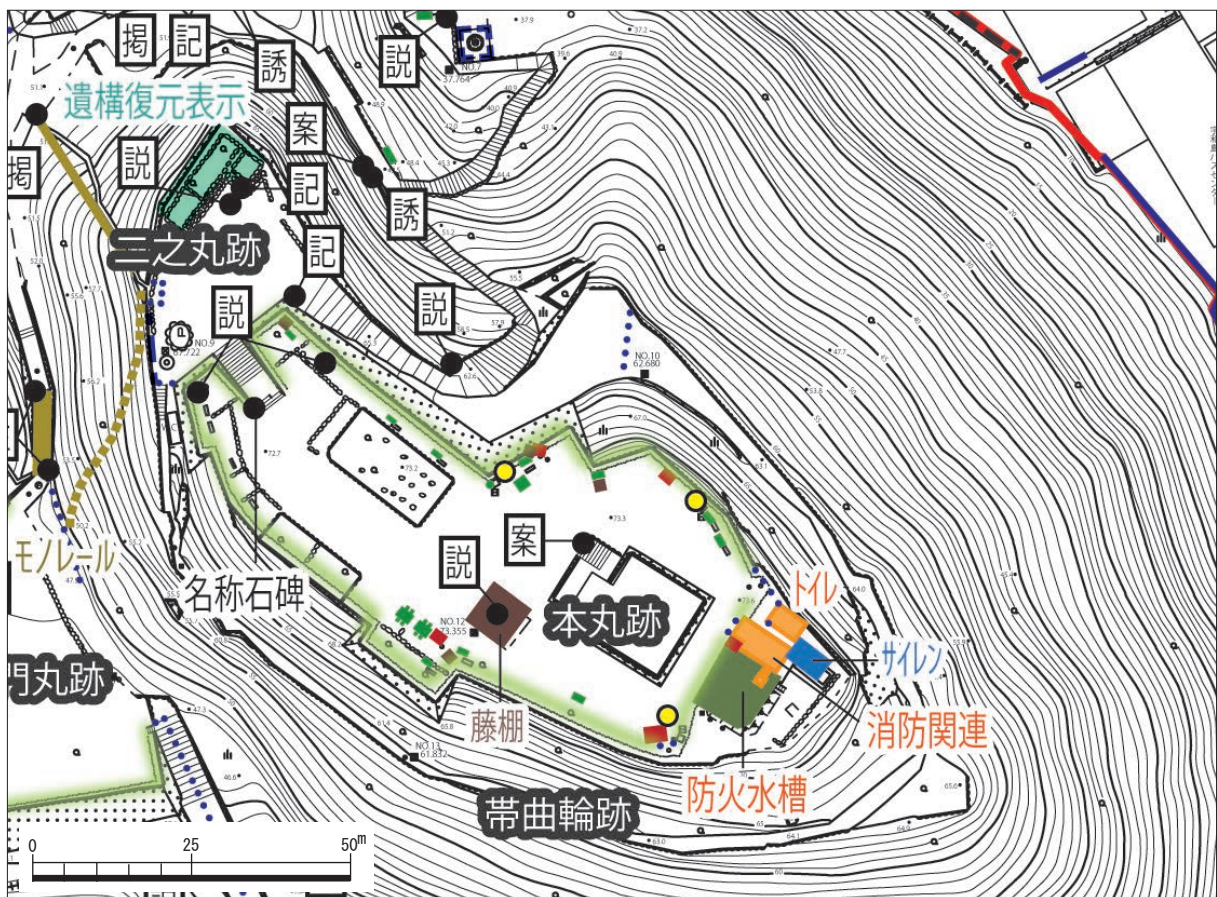
帯曲輪のワイヤーネット



モノレール・仮設階段



二之丸・帯曲輪 A 本質的価値を構成する諸要素



二之丸・帯曲輪 B その他の諸要素

3) 藤兵衛丸跡

◆A 本質的価値を構成する諸要素

現状	課題
- 旧来の不均一な石段による登城道が残る。 - 曲輪の北側には藤兵衛丸北角矢倉の櫓台があり、東側には北角矢倉に連なる石垣が残っている。 - 北西側の藤兵衛丸石垣全般にハラミ・変形が見られる。 - 石段南側の石垣に変形が見られる。 - 郷土館の東側に城番屋敷跡と考えられる礎石が残る。	- 藤兵衛丸へと至る石段は奥行きや高さが不均一であるため、高齢者が容易には登城できない状態になっている。 - 北角矢倉の櫓台周辺は転落のおそれもあり立入禁止となっている。 - 石垣全体にハラミや変形、転石が見られ、経年による崩落の危険性がある。 - 絵図には城番屋敷が描かれるが、絵図によって形態が異なり、その実態が不明である。

◆B-1 本質的価値の補完に好影響を及ぼす諸要素

現状	課題
- 曲輪の約半分を城山郷土館と穂積兄弟生家長屋門が占める。城山郷土館では宇和島に関連した偉人について展示を行い、穂積兄弟生家長屋門は城内の管理事務所として使用している。 - 郷土館内には水洗トイレが設置されている。	令和9年度開業予定の新伊達博物館ではエントランス部分で偉人に関する展示を行う予定であり、現在の郷土館と役割が重複してしまう。

◆B-2 史跡の価値に直接関係しない諸要素

現状	課題
- クスノキやムクノキなどの高木が立ち並び、梅雨や台風の時期には落枝や倒木が発生している。 - 郷土館北側及び西側には石垣上に鉄筋コンクリート製の塀が立っている。 - 二之丸へ向けて仮設階段が設置されている。	- 穂積兄弟生家長屋門の北側には過去に伐採した樹木が仮置きされており、一般公開前には搬出処分する必要がある。 - 鉄筋コンクリート製の塀は経年劣化による爆裂が発生しており、大地震等の際には倒壊のおそれがある。



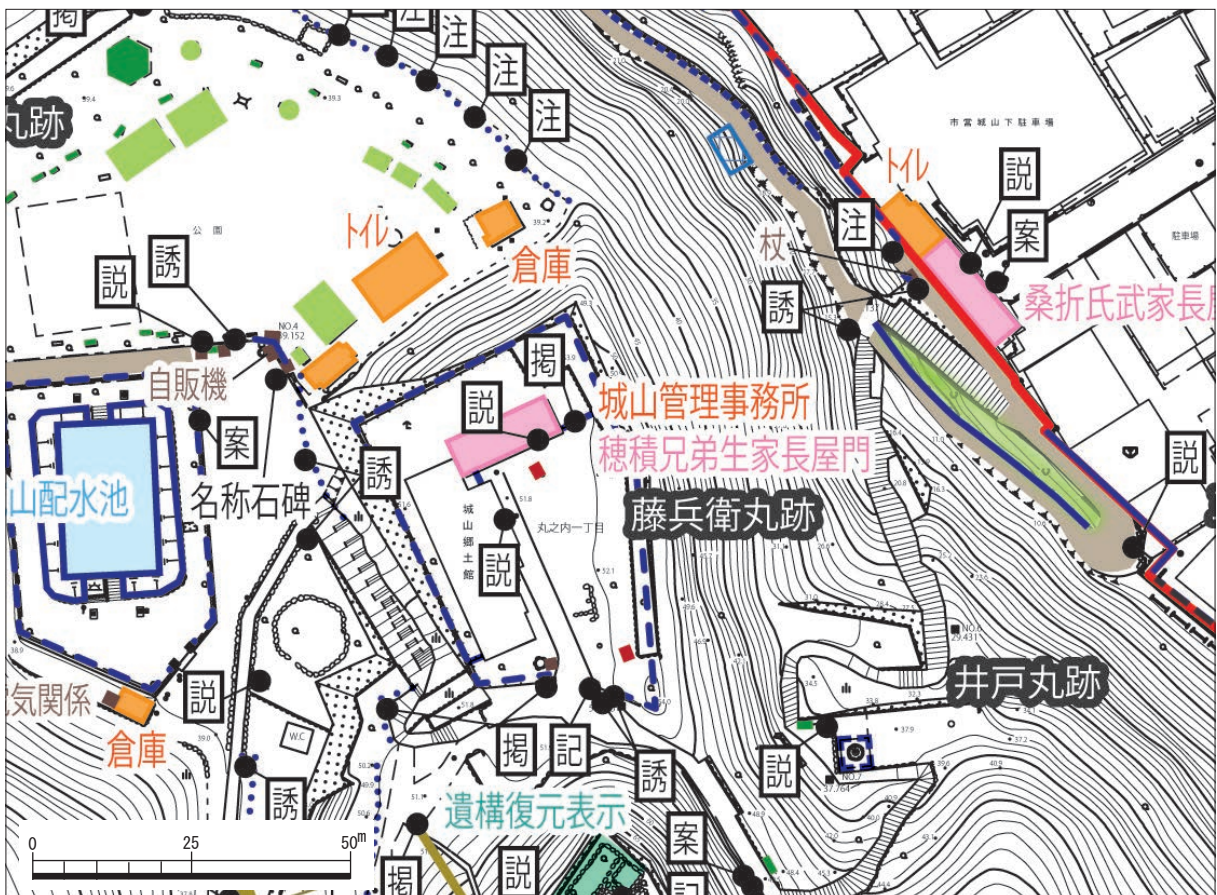
藤兵衛丸北西石垣



コンクリート製の塀



藤兵衛丸 A 本質的価値を構成する諸要素



藤兵衛丸 B その他の諸要素

4) 長門丸跡

◆A 本質的価値を構成する諸要素

現状	課題
・児童公園北側には長門丸北角矢倉と西角矢倉の櫓台が残る。 ・北角矢倉石垣にハラミ等の大きな変形が見られる。 ・西角矢倉の内石垣は樹根によって積石が崩壊・転落している。 ・石垣の天端には多くの樹木が生育し大木化している。	・北角矢倉と西角矢倉の櫓台は転落のおそれもあり立入禁止となっている。 ・降雨等による流水によって北角矢倉石垣周辺の土砂が流出している。 ・石垣上に立つ樹木によって石垣が押し出されており、崩壊・転石のおそれがある。

◆B-1 本質的価値の補完に好影響を及ぼす諸要素

現状	課題
・北側と南側の両登城道が合流する地点であり、誘導板が多く設置している。 ・公園内にはアズマヤなど休憩施設があり、遠足等で来城した小学生等の休憩場所となっている。 ・公園内にトイレ棟があり、トイレ等壁面には史跡の説明板が設置されている。 ・城内の清掃等に使用する機械器具を収納するための倉庫が曲輪東角に設置されている。 ・ベンチが数多く設置されている。	・下城時に来城者が迷う場所になっており、複数の案内板・誘導板を設置しているが数を増やした事による効果はあまり見られず、サイン施設の台座やデザインの統一感も図られていない。 ・倉庫は旧トイレを改修したものであり、白色が目立つため修景の必要がある。 ・アズマヤは石垣の前に立っており、石垣への視線を妨げている。 ・新旧のベンチが混在しており、仕様や配置も含めて再検討する必要がある。

◆B-2 史跡の価値に直接関係しない諸要素

現状	課題
・曲輪の約半分を遊具を伴う児童公園が占め、残る半分のうち約 2/3 を水道局管理の配水池が占める。 ・登城道沿いにはソメイヨシノが立ち並び、公園北側にはクスノキが立ち並ぶ。 ・曲輪東側中央に宇和島伊達家 11 代宗彰氏が題字を書いた宇和島城の譲渡記念碑が設置されている。 ・公園内に宇和島市出身の歌人中井コップの歌碑が設置されている。 ・公園等休憩施設もあり登城者の休憩場所となっているため、曲輪中央付近に自動販売機が 1 台設置している。	・遊具、配水池については本質的価値の理解を阻害するものである。 ・公園北側のクスノキは一部石垣に影響を及ぼしているものもあり、樹高も高くなっていることから早期に剪定・伐採等の対応が必要である。 ・中井コップは宇和島城に関連する人物ではないため、城外への撤去が求められている。 ・自動販売機が景観を阻害しており、修景対象となっている。



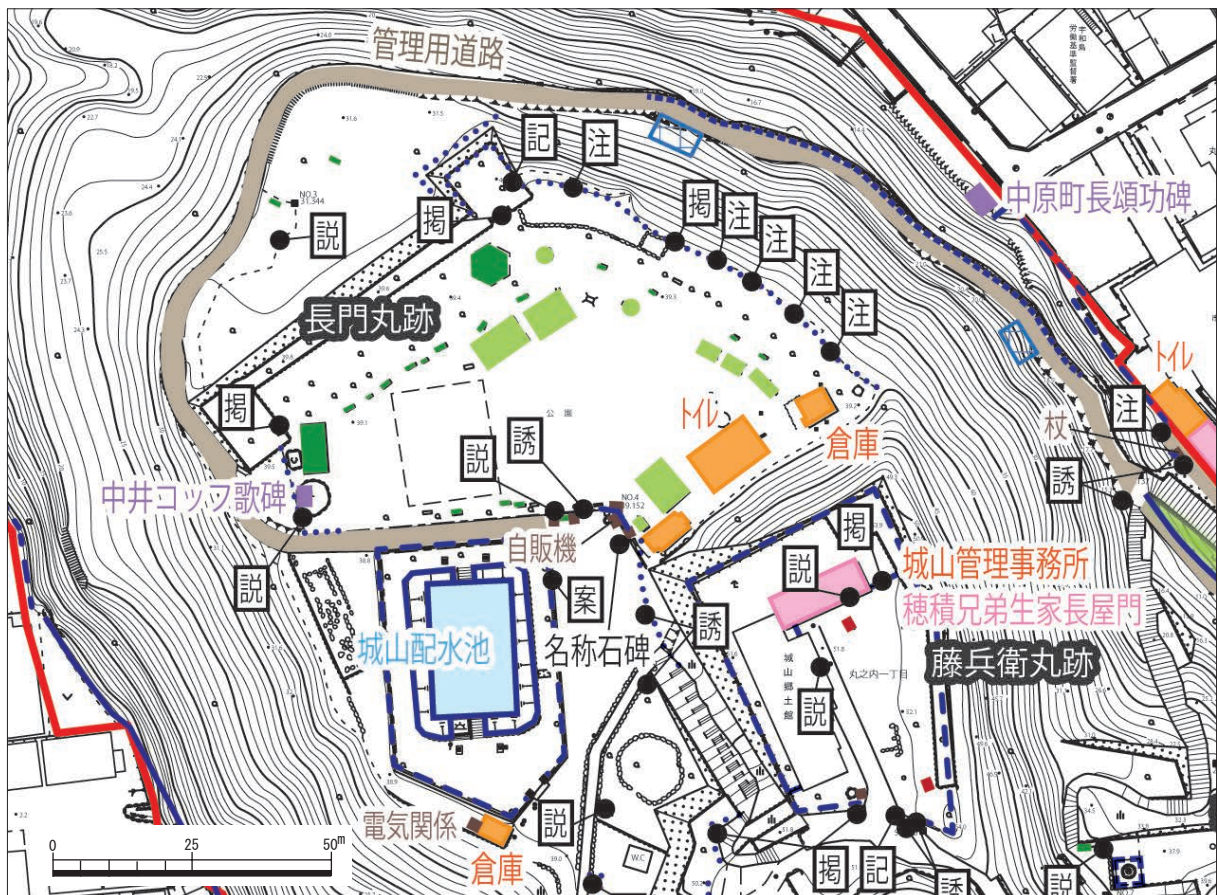
北角矢倉石垣



中井コップ歌碑



長門丸 A 本質的価値を構成する諸要素



長門丸 B その他の諸要素

5) 代右衛門丸跡

◆A 本質的価値を構成する諸要素

現状	課題
・煙硝矢倉へ続く石垣は一部崩落しており、防水シートや支え木で崩落の拡大を防いでいる。 ・代右衛門丸北西隅部、煙硝矢倉石垣にハラミ等が見られる。	・煙硝矢倉石垣などハラミが見られる石垣が多く、崩落の危険性がある。 ・煙硝矢倉近辺は石垣の復旧がされていないこともあり、整備が進んでいない現状にある。

◆B-2 史跡の価値に直接関係しない諸要素

現状	課題
・曲輪内に約 5m 間隔でクスノキの高木が整然と立ち並んでいる。 ・曲輪の南側と西側の石垣上部には一部で断絶があるものの転落防止のために生垣が造られている。 ・二之丸へ向けて資材運搬用モノレールが設置されている。 ・藤兵衛丸側から車両用の緊急通路が設置されている。 ・煙硝矢倉への道は樹木が立ち並び、鬱蒼としている。	・クスノキは間隔が狭く、幹も細くなっているため倒木の危険性がある。 ・発掘調査を実施するために生垣の一部を撤去しており、間から子どもが転落する危険性がある。 ・天守の解体修理や、本丸周辺の復旧が完了していないため、車両用緊急通路とモノレールが残置されている。 ・石垣が崩落しており、木々も鬱蒼としているため、煙硝矢倉への道は来城者を案内しにくい状態にある。



煙硝矢倉へ続く石垣



曲輪内のクスノキ



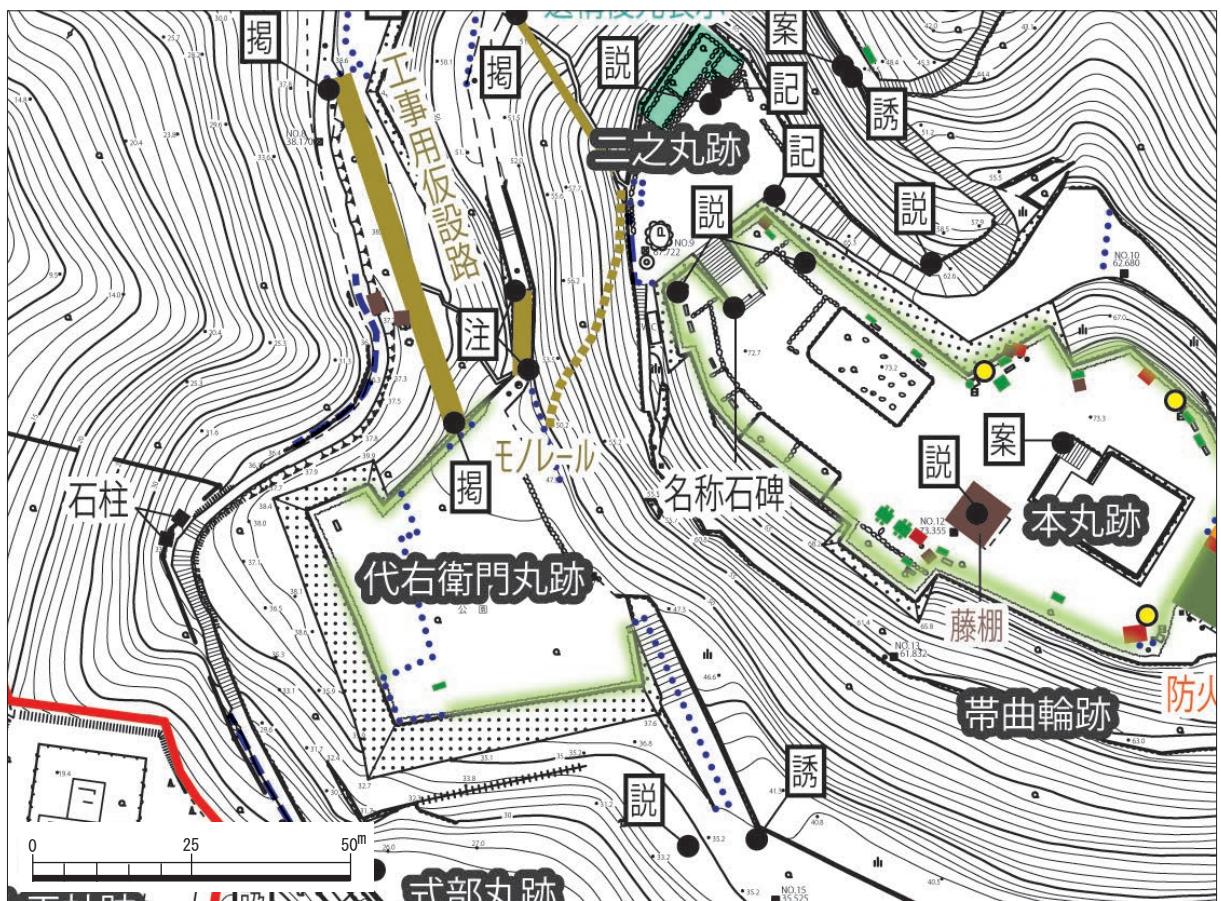
資材運搬用モノレール



車両用緊急通路



代右衛門丸 A 本質的価値を構成する諸要素



代右衛門丸 B その他の諸要素

6) 式部丸跡

◆A 本質的価値を構成する諸要素

現状	課題
- 江戸時代に入ってから造られた曲輪と考えられており、曲輪内には井戸が残されている。 - 平成26年度から28年度にかけて登城道及び曲輪、石垣の修理・整備を行った。	曲輪内に門等の建造物がなかった箇所になるため、曲輪としての見所に乏しい。

◆B-1 本質的価値の補完に好影響を及ぼす諸要素

現状	課題
- 井戸の縁には転落防止のため井戸枠が設置されており、その周囲に立ち入りを防ぐための擬木柵が造られている。 - 曲輪、石垣の解説板が設置されている。	- 擬木柵は経年により爆裂を起こしており、更新もしくは修繕の必要がある。 - 解説板の台座に統一感もなく、また設置個所も安全性や理解度への配慮不足であり、再検討する必要がある。

◆B-2 史跡の価値に直接関係しない諸要素

現状	課題
曲輪東側には竹林が広がっている。	竹が繁茂しており、照度も低く、落ち葉の上を雨水等が流れている状態にある。



式部丸 曲輪全景



修理した石垣



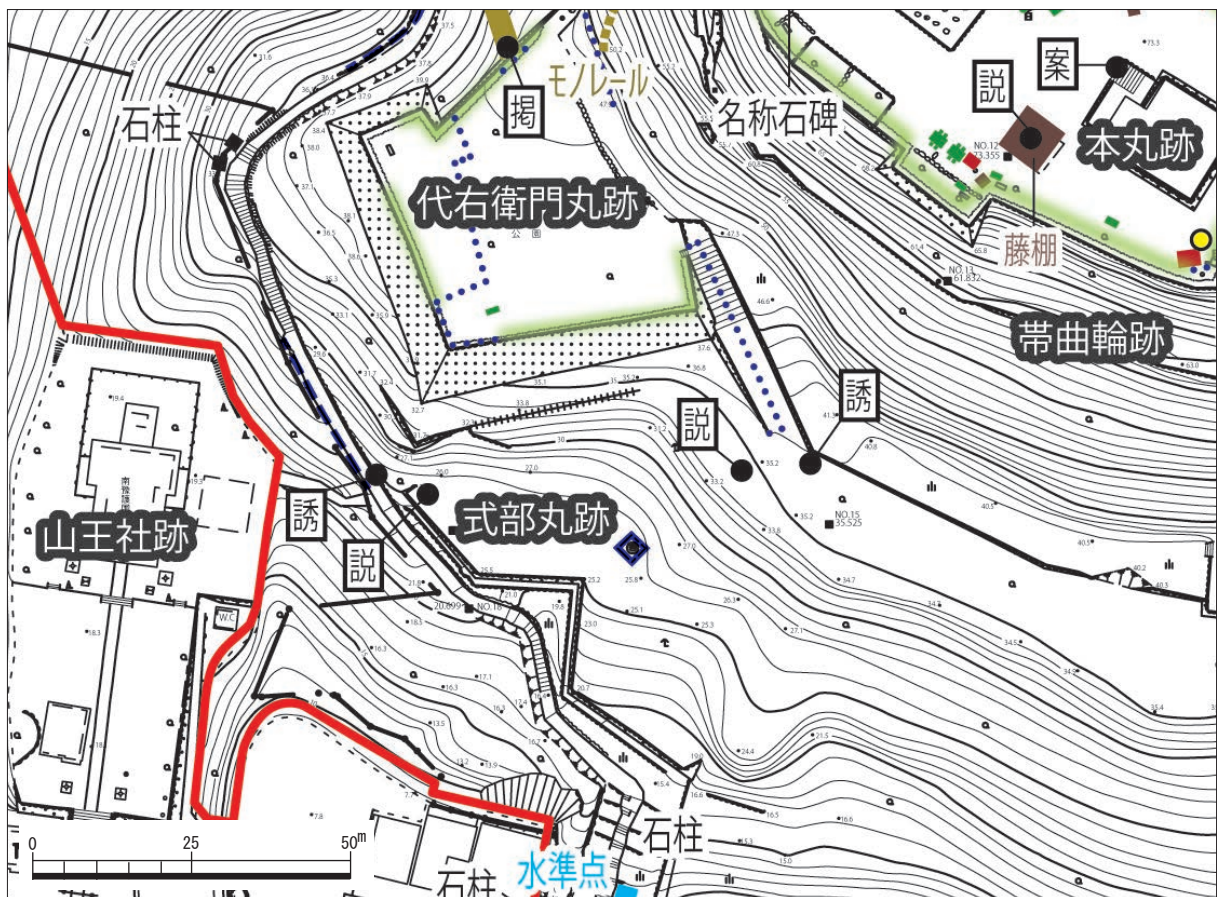
井戸の擬木柵



竹林



式部丸 A 本質的価値を構成する諸要素



式部丸 B その他の諸要素

7) 井戸丸跡

◆A 本質的価値を構成する諸要素

現状	課題
- 井戸が造られた曲輪であり、曲輪を構成する石垣や、門と塀の礎石が残る。井戸縁には城内唯一の金石文が刻まれた石が残る。 - 北側からの旧来の登城道にあたり、急な石段が連なっている。	- 北側の石垣にはハラミが見られる。 - 北側の石垣上に木が立っており、樹根による石垣への影響が考えられる。 - 急で段差が高い石段が続くため、高齢者などが通行を回避する可能性がある。 - 井戸丸矢倉と井戸丸門は発掘調査が未実施であり、実態が把握できていない。

◆B-1 本質的価値の補完に好影響を及ぼす諸要素

現状	課題
- 曲輪部分にはベンチを設置しており、登城者の休憩場所となっている。 - 井戸の縁には転落防止のため井戸枠が設置されており、その周囲に立ち入りを防ぐための擬木柵が造られている。	井戸枠周辺にはコケが繁茂しており、将来的に井戸枠がコケに覆われる可能性がある。

◆B-2 史跡の価値に直接関係しない諸要素

現状	課題
登城道の左右から伸びる樹木によって、他の登城道と比べるとやや薄暗くなっている。	伸長した樹木の剪定伐採が困難な状況となっている。



井戸丸北側石垣



井戸丸登城道



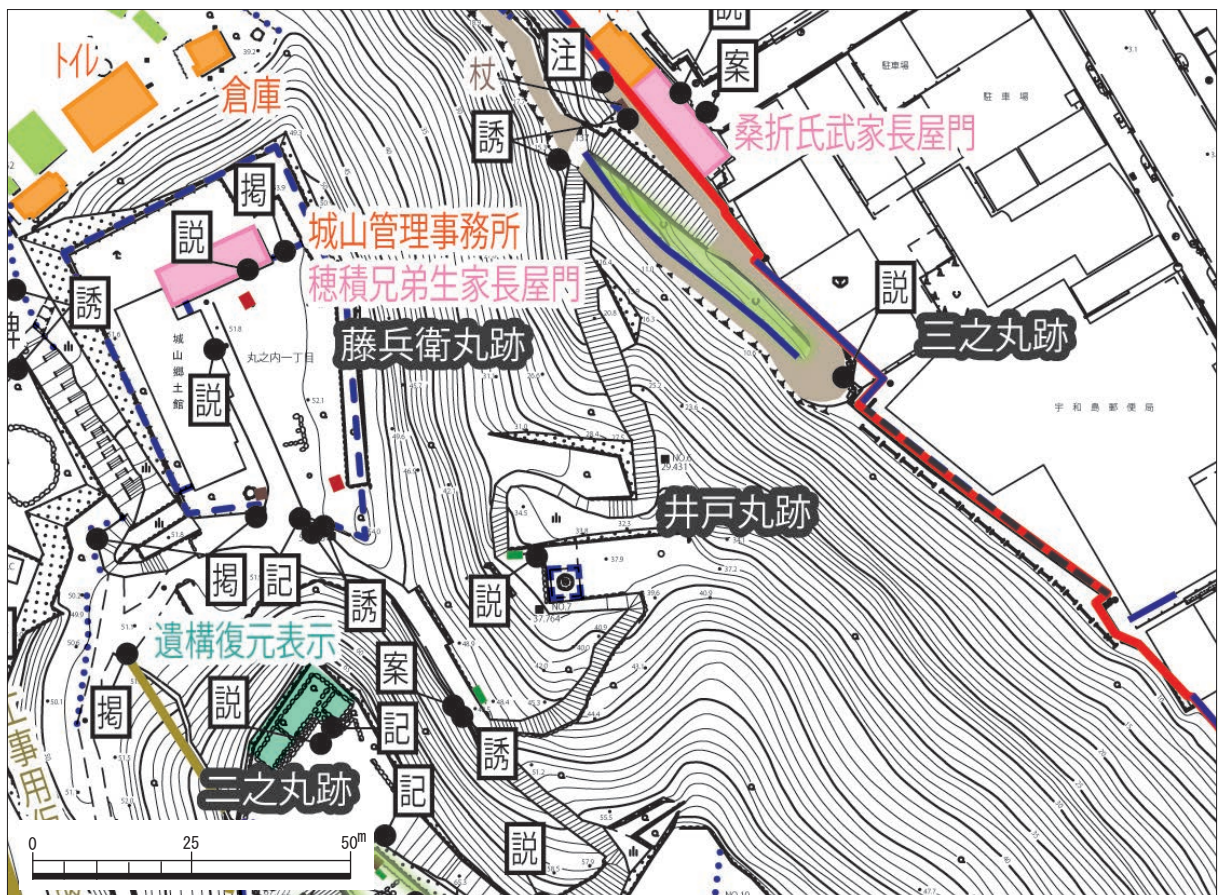
井戸周辺



金石文が刻まれた石



井戸丸 A 本質的価値を構成する諸要素



井戸丸 B その他の諸要素

8) 三之丸跡

◆A 本質的価値を構成する諸要素

現状	課題
- 平成14年度から21年度にかけて調査が行われ、平成24年度に舗装整備が行われて、一般開放された。 - 南東側の郵便局裏には鏡積みの石垣が残る。	

◆B-1 本質的価値の補完に好影響を及ぼす諸要素

現状	課題
北東側には転落防止のためロープ柵が設置されている。	ロープ柵は平成24年度に整備された後更新しておらず、根元が腐食し始めている。

◆B-2 史跡の価値に直接関係しない諸要素

現状	課題
- 南西部斜面には整備した当時のボランティアによって植栽整備がされている。 - 史跡指定地内に宇和島町初代町長である中原町長の功績をたたえた頌功碑がある。	- 適切に植栽管理を継続する必要がある。 - 中原町長頌功碑は史跡範囲内にあるが、宇和島城と関係ないものであるため、移転・撤去する必要がある。

①桑折氏武家長屋門周辺

◆B-1 本質的価値の補完に好影響を及ぼす諸要素

現状	課題
- 史跡指定地外であるが、宇和島藩老桑折家より移築した長屋門が北側登城口の入口にあり、現在では登城口として認知されている。 - 桑折氏武家長屋門は安全確保のため柱と冠木に補強材を据え付けている。	桑折氏武家長屋門は経年劣化による傾斜や漆喰壁の破損が発生しており、早急な修理が必要である。

◆B-2 史跡の価値に直接関係しない諸要素

現状	課題
現在は管理用に車両が通行可能な道路が造られており、その際に改変されてと考えられる箇所が見られる。	



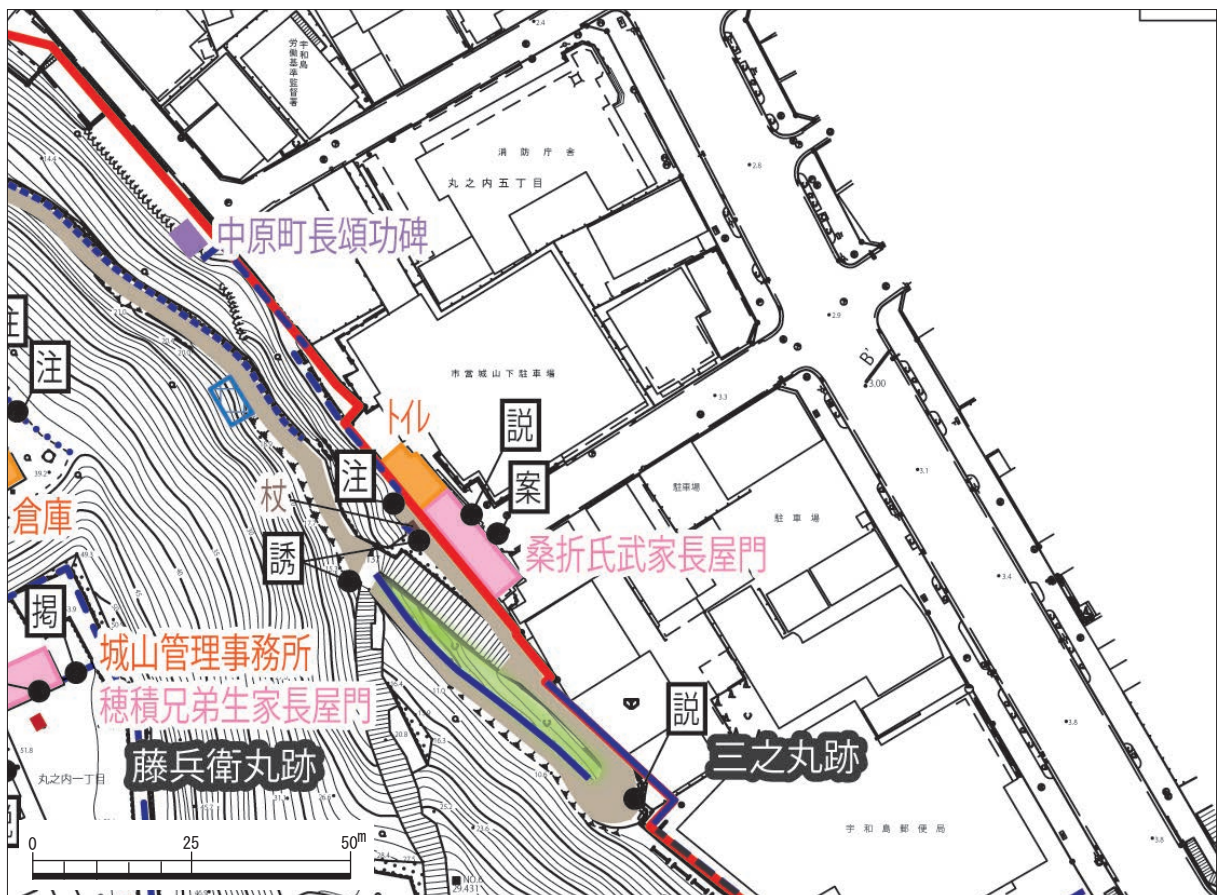
三之丸 ロープ柵



桑折氏武家長屋門



三之丸・桑折氏武家長屋門周辺 A 本質的価値を構成する諸要素



三之丸・桑折氏武家長屋門周辺 B その他の諸要素

9) 上り立ち門周辺

◆A 本質的価値を構成する諸要素

現状	課題
- 平成 18 年に上り立ち門の保存修理工事を実施しており、その際に部材の一部交換を行っている。 - 門の内側東には番所跡と思われる石垣が残る。 - 旧来の登城道が残り、両側が一部失われているが石段が残されている。 - 北側突き当たりの石垣は大雨による流水で崩壊が発生した。 - 登城道の西側には旧来のものと見られる排水溝が残っている。	- 発掘調査を実施していないため、石段が左右にどの程度広がっていたかの確認ができていない。 - 番所跡も発掘調査が未実施のため、建物痕跡が確認できていない。 - 大雨の際には旧来の排水溝や崩壊した石垣近辺に流水が集中するため、オーバーフローが発生し、石段部分に流水による洗掘が発生している。

◆B-1 本質的価値の補完に好影響を及ぼす諸要素

現状	課題
- 一級水準点が設置されている。 - 宇和島城全体の解説板を設置している。	説明板については史跡範囲、指定年月日などの基本的事項の記載がなく、内容更新を行う必要がある。

◆B-2 史跡の価値に直接関係しない諸要素

現状	課題
- 門の前には都市整備部局が整備を行ったポケットパークがあり、宇和島出身の偉人である児島惟謙の銅像が立っている。 - 登城道の左右にはバナナの木など史跡とは関係のない樹木が並んでいる。	児島惟謙の銅像は宇和島城と関係のないものであるため移設・撤去する必要がある。

②作事所跡

◆A 本質的価値を構成する諸要素

現状	課題
平成 27 年度に試掘調査を行い、平成 28 年に史跡に追加指定された。その後、平成 29 年度に内容確認調査を行った。	史跡に追加指定となった後、整備を実施できていない状態にある。

◆B-1 本質的価値の補完に好影響を及ぼす諸要素

現状	課題
以前は日本たばこ産業宇和島営業所のあった場所であり、現在は当時の建物を一部残して宇和島城整備事務所として利用している。	史跡追加指定となった後も、現在の建物を使用し続けている状態にある。



上り立ち門周辺・作事所 A 本質的価値を構成する諸要素



上り立ち門周辺・作事所 B その他の諸要素



上り立ち門及び作事所遠景



上り立ち門



上り立ち門周辺登城道



番所跡



登城道沿いの石垣



崩落した石垣



児島惟謙の銅像



土堀の痕跡



旧来の排水溝



宇和島城整備事務所



宇和島城整備事務所内倉庫



作事所跡裏斜面



駐車場

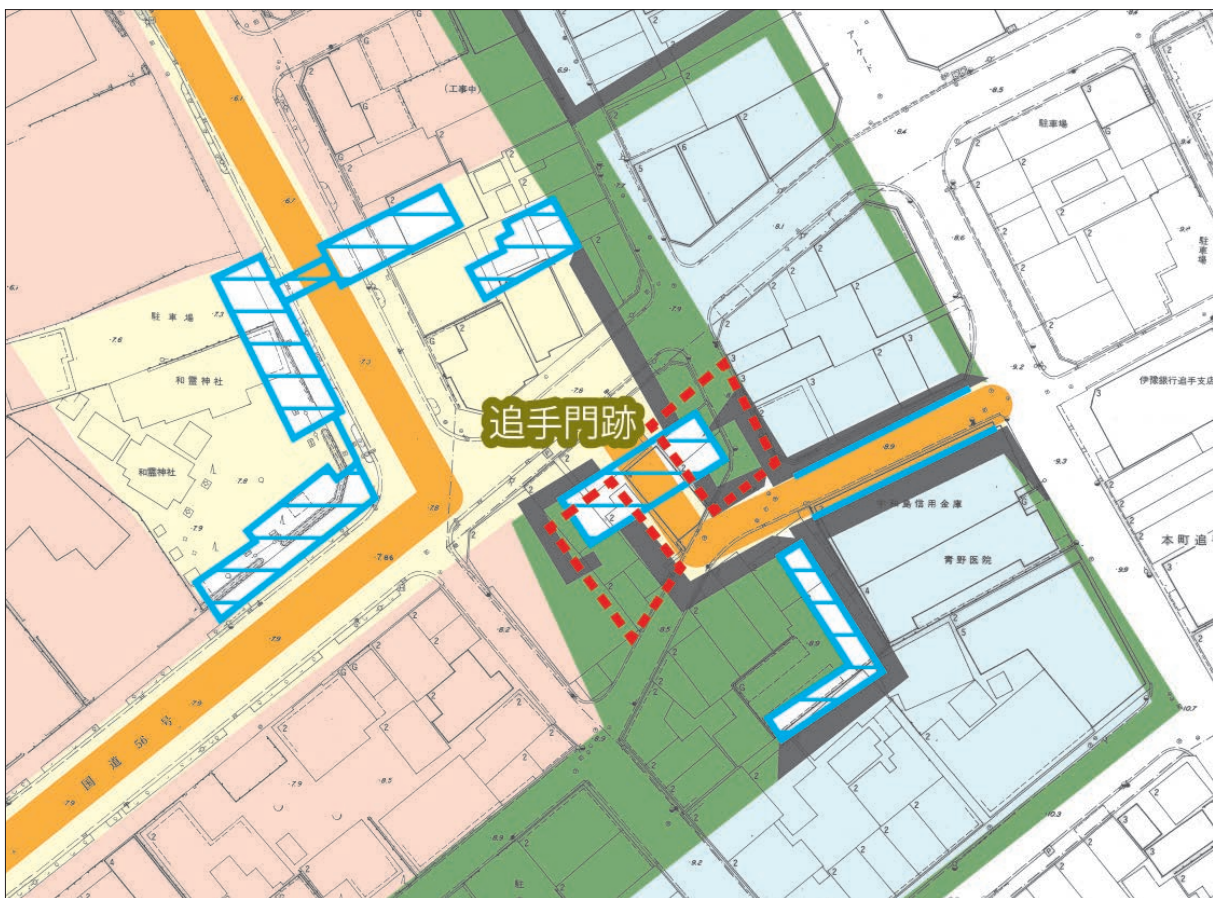
10) 追手門跡

◆A 本質的価値を構成する諸要素

現状	課題
平成 21 年度の試掘調査によって石垣の一部が確認された。	昭和 50 年代の土地区画整理によって換地調整が行われているため史跡指定範囲が正確に把握できていない状態にある。

◆B-1 本質的価値の補完に好影響を及ぼす諸要素

現状	課題
追手門跡地近辺の民有地に「追手門旧跡」と刻まれた石が残されている。	元々は石垣石材を転用したものと思われ、民有地内にあることからの移設の必要がある。



追手門跡 A 本質的価値を構成する諸要素



史跡指定推定範囲の現況



発掘調査箇所遠景

3 整備の現状と課題

史跡宇和島城の整備に関しては、昭和30年代から天守修理事業や園路整備といった公園整備が行われたが、本格的な史跡整備は行われず、平成8年(1996)12月に「宇和島城整備計画」を策定、本丸周辺の建造物復元を主眼として、各遺構の表示等整備や石垣修理、道の修復・復元等の整備を計画していた。しかしながら、平成9年度(1997)の遺構確認調査において、二之丸跡にて想定していなかった石垣の重度の損壊が認められ、平成10年度(1998)から石垣修理を優先的に行うとともに二之丸の櫓跡の平面表示等も実施した。石垣の損壊は他の箇所でも確認されたため、平成12年度(2000)に遺構確認と石垣修理を優先的に実施していくこととしたが、平成18年度の代右衛門丸跡石垣の崩落、平成23年(2011)と平成26年(2014)の2回に渡り台風等の風雨によって本丸南側で石垣を含めた斜面部が崩落、平成24年(2012)には二之丸斜面の表層崩壊と、想定していなかった復旧事業に時間を要し、ようやく令和3年度(2021)に本丸跡の災害復旧工事が終了したところである。

式部丸などの曲輪整備やトイレや誘導サインなどの便益施設の整備も一部実施しているものの、当初計画の石垣や矢倉等の遺構確認調査が完了できていない箇所への対応、災害復旧を通して新たな課題となった樹木管理や雨水処理への対策、追加指定区域で新たな宇和島城の魅力作りにつながる作事所跡の整備について、今後取り組んでいかなければならない。

宇和島城保存整備事業（平成9年度～）前の整備状況

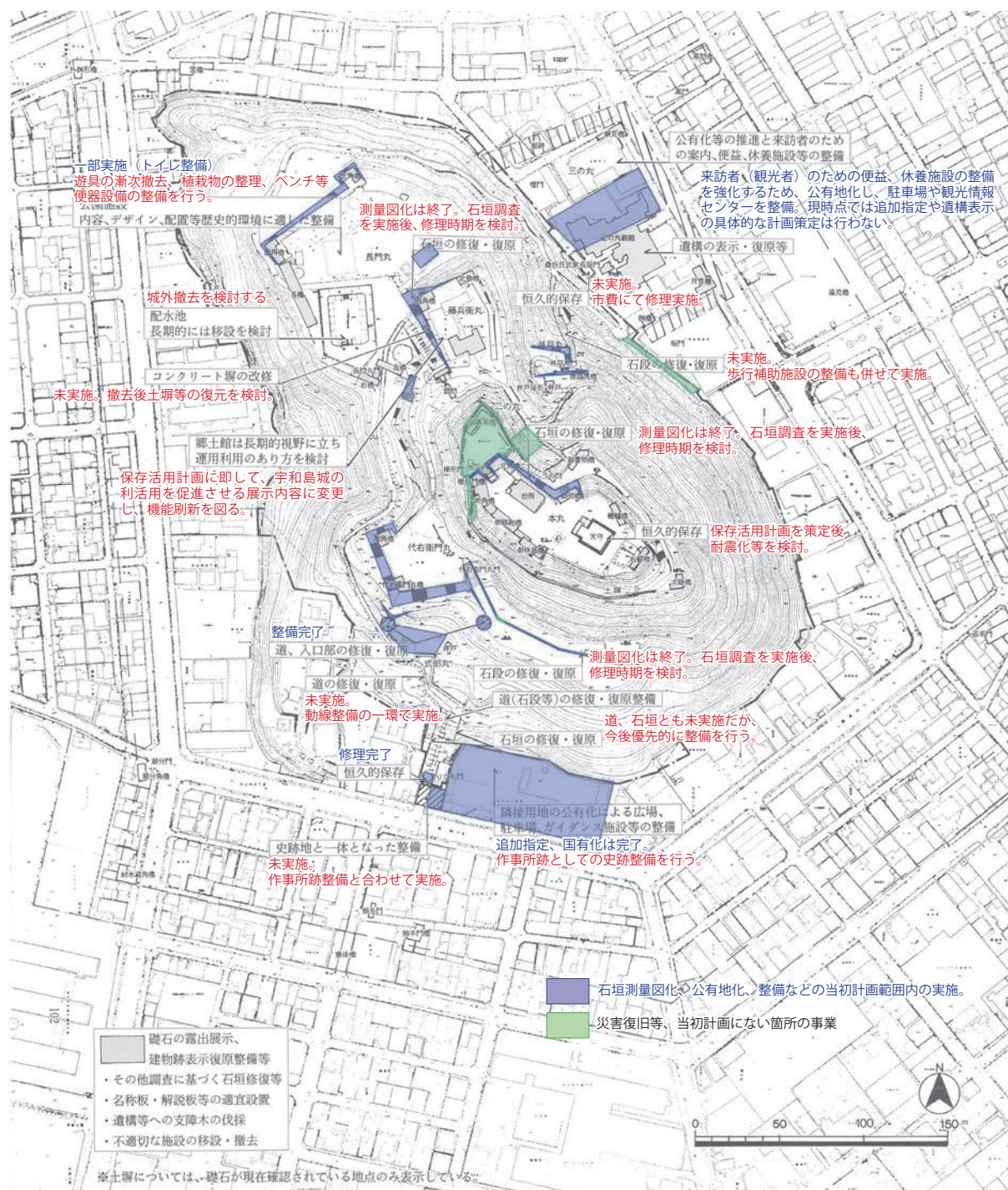
年度	事業概要		事業費（千円）	
	事業名	事業箇所	補助対象	市単費
昭和31年		城山排水地完成 1,600m ³		
昭和32年		広場の整地完成		
昭和32～33年	失業対策事業	登山道幅2m延長385m新設 旧登山石段道を補修		
昭和37年		天守解体修理		
昭和38年		天守周辺の樹林伐採		
昭和41年		城山郷土館完成		
昭和44年		天守災害復旧屋根葺替部分修理		
昭和47年		穂積陳重生誕の家完成		
昭和50年	環境整備事業	天守部分修理	1,800	
昭和52年		史跡宇和島城跡現状変更許可申請書 1. 三治大明神 牛鬼小屋の撤去について 2. 崩壊箇所の石垣復原について		
昭和57年	環境整備事業	登山道の整備	3,500	
		樹叢の整備、標識・説明板の設置		239
	建造物整備事業	天守瓦の補修 上り立ち門の補修		293
		藩老桑折氏武家長屋門の補修及び隣接小屋の撤去	4,850 (ライオンズクラブ)	
昭和58年	宇和島城跡整備事業	園路整備等 77.931m ²	2,960	
	宇和島城跡整備事業	三治大明神 牛鬼小屋の撤去 石垣の整備と代右衛門丸跡の整地77.931m ²	2,865	
昭和59年	史跡宇和島城保存修理事業	本丸跡の整備（カラタチ伐採とウバメガシ・竹垣による外柵の設置、休憩施設の設置） 二の丸跡の整備（水飲み施設の設置） 代右衛門丸跡の整備（ウバメガシ・竹垣による外柵の設置、休憩施設の設置） 登山道の整備（擬木による外柵の設置）	2,535	
昭和60年	環境整備事業	本丸跡池の外柵の整備、御書物矢倉跡の整地 代右衛門丸跡裏の整地 石垣の整備（長門丸左矢倉跡伐木） 登山道の整備（擬木による外柵の設置）	1,535	
	建造物撤去及び移転事業	猿舎の撤去		600
	建造物整備時俵業	天守の補修（屋根葺及び壁部修理）	4,050	
昭和61年	環境整備事業	ごみ置き場新設、鉄柵撤去、落石防止	650	
昭和63年	環境整備事業	城山の沿革・案内板設置、かづら除去	420	
		登山道（自動車）の路肩補修	1,100 (都市計画)	
平成4年	重要文化財宇和島城天守 防災施設改修事業	天守防災施設整備	9,092	
平成5年	重要文化財宇和島城天守 防災施設改修事業	天守防災施設整備	3,518	
平成6～7年	宇和島城天守保存修理事業	壁、建具他	16,750	8,376

宇和島城保存整備事業（平成9年度～）の整備状況

年度	面積 (㎡)	事業内容	総事業費 (千円)	補助額 (千円)
平成9年	(測量) 562.57㎡ (発掘) 200㎡ ※表面清查・トレンチ	石垣測量(藤兵衛丸) 石垣分布調査 発掘調査(藤兵衛丸・二之丸) 支障木伐採(二之丸)	17,012	国 : 8,506 県 : 2,385 計 : 11,341
平成10年	(測量) 429.37㎡ (発掘) 78.25㎡ (石垣解体) 13.5㎡	石垣測量(二之丸・代右衛門丸) 発掘調査(二之丸) 支障木伐採(二之丸) 石垣修復工事(二之丸)	17,000	国 : 8,500 県 : 2,833 計 : 11,333
平成11年	(測量) 60㎡ (発掘) 78.25㎡ (石垣解体) 44.2㎡ (石垣積直) 50.01㎡	遺構測量(二之丸) 地質調査(二之丸) 発掘調査(二之丸) 石垣修復工事(二之丸)	25,000	国 : 12,500 県 : 3,333 計 : 15,833
平成12年	(測量) 1309.44㎡ (発掘) 334.4㎡ (石垣解体) 15.35㎡ (石垣積直) 7.95㎡	遺構測量(二之丸・代右衛門丸) 地質調査(二之丸) 発掘調査(二之丸) 石垣修復工事(二之丸)	27,000	国 : 13,500 県 : 4,500 計 : 18,000
平成13年	(測量) 135.1㎡ (発掘) 60㎡ (石垣解体) 41.13㎡	遺構測量(二之丸) 発掘調査(二之丸) 石垣修復工事(二之丸)	30,000	国 : 15,000 県 : 5,000 計 : 20,000
平成14年	(測量) 141.32㎡ (発掘) 118㎡ (石垣解体) 9.19㎡ (石垣積直) 40.57㎡	遺構測量(三之丸) 発掘調査(二之丸・三之丸) 石垣修復工事(二之丸)	19,800	国 : 9,900 県 : 3,300 計 : 13,200
平成15年	(発掘) 405㎡ (石垣解体・積直) 17.12㎡ (植栽) 57㎡ (真砂土舗装) 41.53㎡	発掘調査(二之丸・三之丸) 石垣修復環境整備工事(二之丸)	18,980	国 : 9,490 県 : 2,598 計 : 12,088
平成16年	(発掘) 400㎡ (土のう解体・積直) 24.03㎡ (不陸整正) 444.56㎡ (真砂土舗装) 27.91㎡	発掘調査(三之丸) 石垣修復環境整備工事(二之丸) 不適切施設撤去工事(三之丸)	30,000	国 : 15,000 県 : 2,872 計 : 17,872
平成17年	(測量) 11,590㎡ (発掘) 256㎡ (門解体) 30.16㎡※屋根面	発掘調査(本丸) 上り立ち門保存修理工事(南側登城口) 不適切施設撤去工事(三之丸)	25,000	国 : 12,500
平成18年	(発掘) 301㎡ (門修理) 30.16㎡※屋根面	発掘調査(本丸) 上り立ち門保存修理工事(南側登城口)	20,000	国 : 10,000
平成19年	(発掘) 400㎡ (植生整理) 600㎡ (石材整理) 100㎡ (仮設道) 50m (測量) 1200.58㎡	発掘調査(三之丸) 植生整理(上り立ち門) 石材整理(代右衛門丸跡※崩落箇所) 仮設道設置(三之丸) 石垣レーザー測量(本丸・長門丸)	18,750	国 : 9,375
平成20年	(発掘・植生整理) 350㎡ (安全防護柵) 49m (石垣解体) 47㎡ (測量及び解析) 10255.96㎡	発掘調査・植生整理(代右衛門丸～式部丸) 石垣修理(三之丸※仮設・解体のみ) 平面図及びレーザー解析(長門丸) 平面図及びレーザー測量(井戸丸)	30,000	国 : 15,000

第3章 史跡の概要

年度	面積 (㎡)	事業内容	総事業費 (千円)	補助額 (千円)
平成21年	(発掘) 1170.8㎡ (石垣解体) 106.6㎡ (石垣積直) 165.8㎡ (真砂土舗装) 109.9㎡ (木柵) 58.3㎡	発掘調査 (代右衛門丸～式部丸・長門丸・井戸丸) 石垣修理及び環境整備(三之丸)	35,000	国 : 17,500
平成22年	(発掘) 980㎡ (トイレ工事) 配管工: 500㎡ 本体工: 100㎡	発掘調査(長門丸) トイレ建替工事(長門丸跡)	32,000	国 : 16,000
平成23年	(発掘) 422㎡ (実施設計) 1,340㎡ (測量) 204.8㎡	発掘調査 (代右衛門丸～式部丸) 実施設計 (代右衛門丸～式部丸・井戸丸・長門丸) 測量業務 (本丸)	12,500	国 : 6,250
平成24年	(発掘) 2,333㎡ (石垣修理) 解体: 14.2㎡ 積直: 37.6㎡ (舗装)※見込み 110.6㎡ (解説板) 1基	発掘調査※解体調査含む (代右衛門丸～式部丸・本丸・長門丸 ・両登城口・本丸) 石垣修理(代右衛門丸～式部丸) 解説板・舗装(三之丸)	19,766	国 : 9,883
平成25年	(石垣修理) 17.9㎡※立面 (伐開) 2,000㎡ (発掘) 700㎡	石垣修理: 代右衛門丸 実施設計: 桑折氏武家長屋門 総合案内板: 2基(両登城口) パイオトイレ: 1基(本丸) 伐開: 長門丸周辺 発掘調査: 代右衛門丸・本丸・式部丸	16,901	国 : 8,450
平成26年	(道整備) 1900㎡ (発掘) 250㎡	登城道整備(抜開作業): 式部丸 発掘調査: 代右衛門丸・本丸跡	10,200	国 : 5,100
平成27年	(石垣修理) 38.0㎡※立面 (発掘) 700㎡	石垣修理: 式部丸 発掘調査: 式部丸・本丸	13,483	国 : 6,741
平成28年	(石垣修理) 67㎡ (発掘) 400㎡	石垣修理: 式部丸: 21㎡ ※H29年に繰越 本丸: 46㎡ (災害復旧工事按分実施) ※H29年に繰越 発掘調査: 本丸: 400㎡	25,157	国 : 12,578
平成29年	(石垣修理) 16㎡ (発掘) 120㎡	石垣修理: 本丸 ※災害復旧工事按分(全体: 54㎡, 30%) 実施 ※H30年に繰越	19,880	国 : 9,940
平成30年	(石垣修理) 29㎡	石垣修理: 本丸 ※災害復旧工事按分(全体: 98㎡, 30%) 実施	12,936	国 : 6,468
令和1年	(石垣修理) 25㎡	石垣修理: 本丸 ※災害復旧工事按分(全体: 84㎡, 30%) 実施 ※R2年に繰越	6,906	国 : 3,452
令和2年	(支障木伐採) 4本	支障木伐採: 代衛門丸下4本	2,255	国 : 1,127
令和3年	(石垣修理) 7㎡	石垣修理・排水路工・天守防災設備復旧工: 本丸 ※災害復旧工事按分(全体: 22㎡, 30%) 実施	5,869	国 : 2,934
令和4年	(支障木伐採) 4本	支障木伐採: 4本 整備基本計画策定	2,102	国 : 1,051
令和5年	(支障木伐採) 2本	支障木伐採: 整備基本計画策定	2,045 ※見込み	国 : 1,022 ※見込み



平成 8 年策定の宇和島城保存整備事業の実施状況図

4 サインに関する現状と課題

現在、宇和島城内には説明板、解説板、記名板、案内板、誘導板、掲示板の6種類のサインが設置されている。サインについては『史跡宇和島城 保存活用計画書』で「分かりやすい表現や表示内容に努めることや、表現や表示の共通性・連続性が求められる」としている。

現況のサイン分類及びその課題は以下表のとおりである。また、総じて日本語のみの表記となっており、多言語に対応できていない。そして、板面デザイン、台座や脚部分の仕様が統一されておらず、来城者に対して煩雑なイメージを与えている。

種類	目的	掲載情報	課題	設置箇所等
説明板	史跡説明	宇和島城跡の概要説明	史跡範囲が示されておらず、情報が不十分である。	- 両登城口 - 児童公園
解説板	遺構解説	曲輪や石垣、遺構の解説	- 曲輪解説板は台座や脚部の仕様が統一できていない。 - 一部曲輪で解説板が設置されていない箇所がある。	曲輪や石垣、遺構の前
記名板	遺構表示	遺構の名称表示	- 遺構記名板のあるものと - 標柱と埋込プレートの2種が存在している。	各遺構周辺
案内板	城内・施設の案内	- 市内観光案内 - 城内案内 - 施設案内	- 城内案内板は地図のみでその他の情報に乏しい。 - 情報が現況と異なる部分がある。	- 両登城口 - 児童公園 - 施設前
誘導板	史跡内外の誘導	城内の順路案内	- 児童公園周辺は多くの誘導板があるが、それでもなお道に迷う人が多い。 - 上記のため、児童公園周辺には仕様の異なる3種の誘導板が設置されている。 - 史跡範囲外にある関連施設や史跡に関わる要素への誘導がない。	- 登城口 - 城内道中 - 城内分岐
掲示板	注意喚起 イベントの掲示	- 立入禁止区域の表示 - 鳥獣保護区の表示 - 四国4城に関する情報 - 伊達博物館で開催中の展示	- 児童公園では同一の情報でありながら異なる仕様の掲示板が設置されている。 - 一部文字が小さく、視認性が低いものがある。 - イベント掲示板は情報が古く文字も小さいため掲示板としての効果が小さい。	- 立入禁止区域 - 児童公園周辺 - 登城道途中

現況サイン一覧

			
説明板 A (史跡)		説明板 B (史跡)	
			
解説板 A (曲輪)	解説板 B (曲輪)	解説板 C (曲輪)	解説板 D (曲輪)
			
解説板 (石垣)	解説板 A (遺構)	解説板 B (遺構)	解説板 C (遺構)
			
記名板 A (遺構)	記名板 B (遺構)	記名板 (その他)	
			
案内板 (観光)	案内板 A (城内) (史跡説明板と併設)	案内板 B (城内) (史跡説明板と併設)	

第3章 史跡の概要

案内板 A (施設)	案内板 B (施設)	案内板 C (施設)	
誘導板 (市内)	誘導板 A (城内)	誘導板 B (城内)	誘導板 C (城内)
揭示板 A (危険)	揭示板 B (危険)	揭示板 C (危険)	
揭示板 (エリア)	揭示板 (イベント)		



現況サイン配置図

5 動線における現状と課題

宇和島城には北側登城口である桑折氏武家長屋門と、南側登城口である上り立ち門の2か所から登城ルートがある。長門丸・藤兵衛丸跡周辺からは同一ルートで本丸まで登城することとなり、以下のように整理できる。

【上り立ち門起点の南側ルート】

A1：上り立ち門から式部丸跡虎口前に至る江戸期からの城道

A2：式部丸跡虎口前から長門丸へ至る江戸期からの城道

A3：式部丸・代右衛門丸跡を経由し藤兵衛丸跡へ至る江戸期からの城道

【桑折氏武家長屋門起点の北側ルート】

B1：昭和37年に防災道路として敷設した管理道 ※車道として整備、傾斜も緩やかで歩きやすいが、舗装材の劣化によるはがれや陥没が一部認められる。

B2：井戸丸跡を経由する江戸期からの城道 ※城内でもっと斜度があり、石段が続く、厳しい道。

【長門丸から本丸に至る共有ルート】

C1：長門丸跡から雷門跡に至る江戸期からの城道

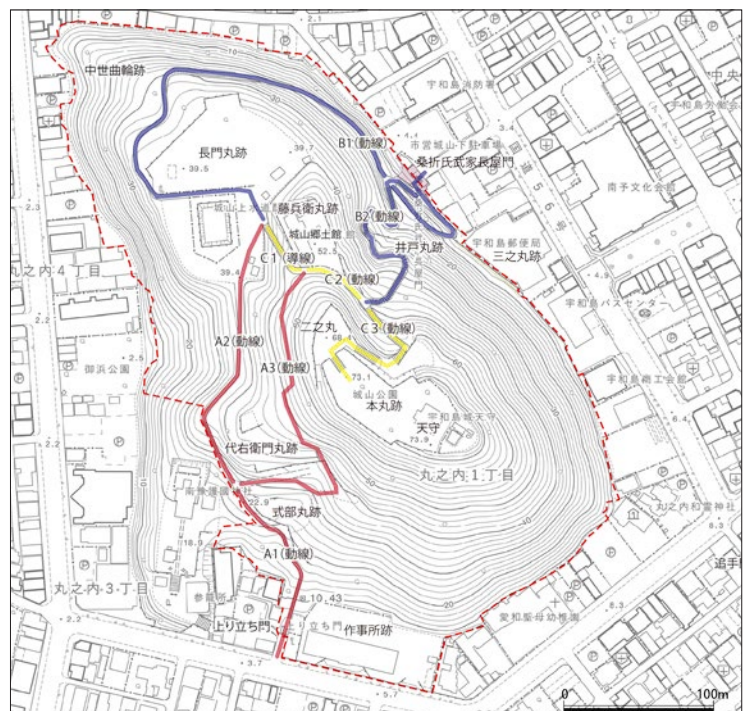
C2：雷門跡から井戸丸跡からの合流地点、江戸期からの城道

C3：井戸丸跡からの合流地点から本丸跡にいたる江戸期からの城道

※一の門（櫛形門）から三の門が構えられていた城内で最も堅牢な区間

江戸期からの城道は、管理道建設による一部欠損や二の門や三の門など礎石の欠損が認められる程度で、近代以降は城道の拡幅やスロープ化などの大きな改変は行われていない。また管理道については、昭和期に整備された車道があるが、一般開放し、遊歩道としても利用している状態で、管理専用道は設置していない。

令和5年10月8日のシルバーウィークに実施した動線アンケート調査結果では、253人中204人が北登城口から天守見学をし、厳しい坂道となる井戸丸を通行者が多い傾向が認められたが、滞在時間は1時間を満たない方が180人となっており、滞在時間短縮を期待しての状況とも考えられる。



現状の動線図

① 桑折氏武家長屋門→B1→C1→2→3→天守の往復 54人/22%

② 桑折氏武家長屋門→B2→C3→天守の往復 61人/25%

③ ①往路+②復路もしくはその逆 89人/36.2%

6 公開活用の現状と課題

1) 公開状況

宇和島城は年間を通じて公開しているが、夜間は防犯上閉鎖している。

天守の観覧者数となるが、近年は年間5万人程度の数字となっている。

施設名	月	公開時間	備考
宇和島城 無料	11月～2月	6時～17時	無 休
	3月～10月	6時～18時30分	
宇和島城天守 入館料（大人200円） ※割引等あり	11月～2月	6時～16時	
	3月～10月	6時～17時	
郷土館 無料	11月～2月	6時～16時	
	3月～10月	6時～17時	

2) 周知状況

市HP・広報誌、パンフレット（日本語版、英語版）、ボランティア組織のフェイスブック等ソフトによる周知活動を行っている。また平成30年（2018）2月末から、城郭施設や城下の光景のバーチャルリアリティ体験ができるスマートフォンアプリケーション「VR 宇和島城」による現地案内も開始している。

3) 学校教育による活用

市内の小学校では小学校6年生を対象として宇和島の郷土学習本「宇和島の歴史と偉人と文化財」を配布し、郷土の学習を行っている。この中で宇和島市の代表的な文化財を紹介しており、「宇和島の文化財ファイル No. 1 宇和島城（国指定史跡）・宇和島城天守（重要文化財）」という項目を設け、文化財では最初に宇和島城を学習している。

また、平成28年度（2016）から始まった郷土愛育成事業の一環で「ふるさと宇和島学」として小学校高学年を対象に夏休みに宇和島の歴史等を学習する講座を開講している。会場の一つに宇和島城を使用し、合戦体験、ウォークラリー、自由研究のワークショップなどの取組を行っている。令和4年度（2022）、令和3年度（2021）に実施したウォークラリーではそれぞれ113人、97人の参加者があり、令和5年度（2023）に開催した自由研究のワークショップでは4人の参加があった。

4) 社会教育

①ボランティア組織設立・活動支援

平成23年（2011）に宇和島城を中心に活動するボランティア団体「宇和島城城山を守る会」が発足。宇和島城の発掘調査・管理作業やガイド等の経験者をはじめとして、広く市民からの参加を募り組織化したものである。維持管理作業の補助や勉強会等を開催しながら体験・学習を重ね、イベント等の企画も行うなど活動している。

②遠足等定期行事

年間を通じて、地元の保育園、幼稚園や小中学校の遠足や野外学習の場となっている。遠足時には長門丸の遊具等が利用されている。

遠足等による宇和島城天守入場者数					
	令和5年度	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年・平成30年度
保育園・幼稚園	0人	0人	9人	36人	68人
小学生	450人	594人	391人	651人	282人
中学生	207人	279人	230人	258人	141人
高校生	52人	0人	79人	0人	0人
その他	0人	53人	4人	4人	4人
計	709人	926人	713人	949人	495人

5) イベント等交流

① ホスピタリティ（おもてなし）

来城者の案内など、宇和島城をより理解してもらうための市民によるホスピタリティの活動の一環として、ボランティアガイドが活動している。有料の城内案内ガイドや観光シーズンのお茶接待などのもてなしを行っている。

② イベント

- ・新春おもてなし：甘酒・お土産（ミカン）
- ・伊達なうわじまお城まつり：GW 期間中に開催、秀宗公入部伊達五十七騎大武者行列、ステージイベント、体験（手裏剣教室、甲冑試着、スタンプラリー等）
- ・宇和島市リアル宝探し（令和5年度実施 527人参加）
- ・夜間開城：中秋の名月にあわせて、実施。

6) 公開・活用における課題

- ・多様な活用を行っているが、宇和島城の本質的価値に迫る活動が出来ていない。
- ・時代毎に異なる石垣や現存建物・建物跡を示す礎石、堀跡を含めた総曲輪など宇和島城の特徴的な遺構を見学できるコースや解説手法など、現存遺構を活かした本質的価値に迫る活用も検討する必要がある。
- ・これら様々な活用の主体や対象について統括的に全体を把握し、今後も効果的な活用を継続的に行う必要がある。そして、イベント等ではボランティアが主体となっていて行っているものが多いが、ボランティア団体の高齢化が進み、ボランティア組織の活動の円滑化や世代交代などに向けた支援（ボランティア育成等）をさらに積極的に行う必要がある。
- ・体験イベント参加者など城郭ファンや歴史文化に興味を持つ層を対象とした活動だけではなく、観光客・学校活動などで訪れるソフトな利用者に向けた本質的価値の周知を意識する必要がある。